

有識者構成員資料

12.14.2022 教育未来創造会議提出資料

池田佳子（関西大学国際部）

1 点目 外国人材の活躍に向けた教育環境整備

近未来の「国際学生」潜在層への投資としての活動・国内へ定着を誘致する高度人材層のための環境支援に資する情報等

コミュニティー自身が独自に設置する動きを公的に支援することで定着は促進される



エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン (EISJ)

東京都杉並区阿佐ヶ谷南3の34の16

ナーサリー（3～5才）、キンダーガーデン、プライマリーがある。

<http://eisj-edu.com/>

Everest International School, Japan (EISJ) is a first and only Nepalese school in overseas which is being run with the authorization of Ministry of Education, Nepal Government (MOE, Nepal). As of now, EISJ has been provided with the authorization to operate the school under Secondary Education Examination (SEE) of National Examination Board of Nepal. EISJ uses the curriculum approved by Curriculum Development Center, Nepal.

ネパールは多様な留学層がいるが、高度人材（IT人材など）層も増加傾向

南アジア（インド・パキスタン）も同様に環境が整備されることで誘致しやすくなる（その子供が次の人材層にもなる）

インターナショナルスクールの費用感

入学時の費用

- 入学金: 20 万円から 50 万円
- 授業料: 100 万円から 280 万円
- 施設使用料: 20 万円から 50 万円

- 教材費: 学年にもよる
- 保護者会費: 2 万円から 5 万円

大学研究者・外国人教員の平均賃金データ(参考)

在留資格区分	賃金 (千円)	対前年増減率 (%)	年齢 (歳)	勤続年数 (年)
専門的・技術的分 野	3,626	-6.7	31.8	2.9
特定技能	2,095	-	28.1	1.1
身分に基づくもの	3,084	4.2	44.4	4.3
技能実習	1,940	2.5	27.1	1.7
留学 (資格外活 動)	-	-	-	-
その他 (特定活動 及び留学以外の資 格外活動)	2,464	-6.1	32.2	2.8

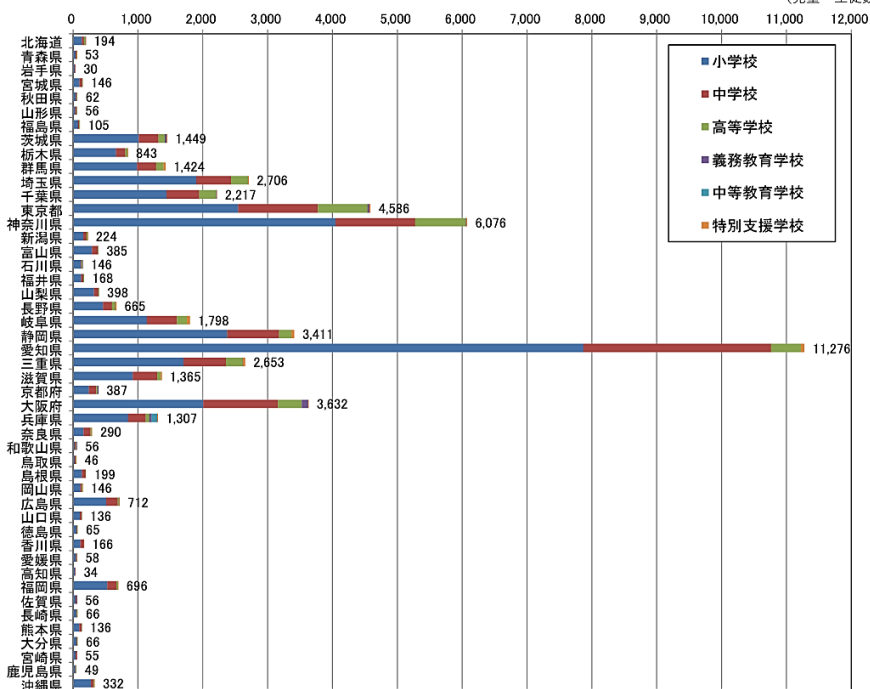
参照：厚生労働省 令和2年賃金構造基本統計調査

https://www.ksk-k.com/column/20211209_3540/

公立の中等教育(高校段階)における高度外国人材層の子どもの教育環境

日本語指導が必要な児童生徒の学校種別在籍状況（都道府県別）※日本国籍・外国籍合計

（児童・生徒数：人）



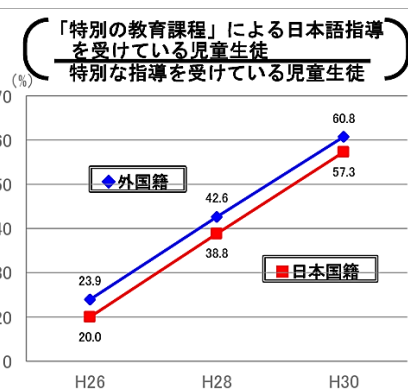
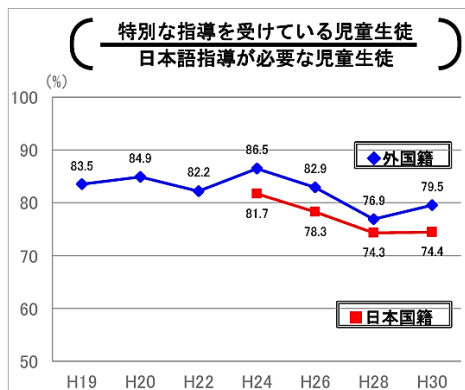
5

帰国・外国人児童生徒に対する日本語指導の現状②

- 日本語指導が必要な児童生徒のうち、特別な指導（教科の補習等）を受けている割合は、外国籍の者で79.5%（2.6%増）、日本国籍の者で74.4%（0.1%増）となっている。

このうち、小中学校において一人一人に応じた指導計画の作成・評価を行う「特別的教育課程」(※)を編成・実施して日本語指導を受けている割合は、それぞれ60.8%（18.2%増）、57.3%（18.5%増）となっている。

※ 平成26年度から導入され、在籍学級以外の教室などで行われる特別の指導を指す。



出典：文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査（平成30年度）」

6

公立高等学校における受入れ「令和2年度高等学校入学者選抜の改善等に関する状況調査」結果から

①帰国・外国人生徒に対する入学者選抜の状況について

	試験教科を 軽減している	学科試験を 実施しない	その他	配慮は行っていない（一般 の選抜と同様に実施）
帰国生徒	15（15）	2（2）	22（23）	12（11）
外国人生徒	16（14）	1（1）	27（25）	12（13）

※入学者選抜の実施に際して、帰国・外国人生徒に対する配慮を実施している都道府県の数に記載。

※「その他」に該当する内容
・出題文の漢字にルビを振る
・辞書の持ち込みを許可する
・試験時間の延長 等

②各学校における特別定員枠の設定状況

	特別定員枠を設定している
帰国生徒	18（18）
外国人生徒	16（14）

※帰国・外国人生徒について、特別定員枠を設定している学校数を回答した都道府県の数に記載。

③編入学試験の実施方法について

	学科試験を 実施している	学科試験を実施している が、試験教科を 軽減している	学科試験を実施して いない（面接・ 作文等のみ）	その他
帰国生徒	22（21）	3（4）	3（3）	25（25）
外国人生徒	22（20）	2（3）	2（3）	26（26）

※編入学試験の実施方法について、それぞれに該当する都道府県の数に記載。

※同一の県において、「学科試験を実施している」高校と「試験教科を軽減している」高校の両方が存在する、などのケースがあるため、合計が47都道府県にはならない。

※全ての表において、（ ）内は前年度の調査結果。

12

https://www2.u-gakugei.ac.jp/~knihongo/feature/upload/2_1.pdf

高等教育レベルで支援している日本語指導は、単なる日本語の基礎学習レベルではない。

彼らの学びと成長を支援・体制作りができる環境とマインド醸成が、公立の教育環境でも担保できると、大学進学>高度人材として成長し、国内で活躍する「グローバル人材層の幅・多様性」がより広がる。

2点目

グローバル高大連携・産学連携等を通じた優秀な学生層の誘致・獲得（海外からの獲得）

（1） オンラインで実施できる学習形態を活用

大学機関がデジタル活用を推進し、Advanced Placement のような柔軟な単位認定や、入学前の活動を認定する→優秀な層を獲得したいのであれば、高いパフォーマンスを示す層が参加する連携型教育を提供・リクルーティングに生かす

海外の高等学校や大学へ科目を開放・デジタルバッジ（オープンバッジ・評価に関する記述子を詳細に記載しブロックチェーン方式で提供）で学習成果を評価

将来的には入学した際に履修をマクロ学位（学士・修士）などに換算できる仕組みが望ましい

The Keys to Creative Collaboration

Ownership
Dependability
Trust
Structure
A Shared
Vision/Direction
Fun!
Candor/Honesty



2022 年度夏 Japan Multilateral COIL Program

「21st Century Skills」のモジュールに加え、「SDGs & Business」「Diversity & Inclusion」の新規モジュールを提供。大阪府内のグローバルリーダーズハイスクール高校生を含め国内外 177 名が履修。

国際生涯教育訓練協会（IACET）におけるバッジ分類 International Association of Continuing Education and Training

IACETによるバッジ分類						
Style	Association (参加・表彰)		Learning (学習)		Competence with Validation (資格・評価)	
Type	Participation Badge	Contribution / Recognition Badge	Grade- Based Badge	Level / Program Badge	Performance Badge	Certification/Lic ense Badge
Description	イベント（プロフェッショナル・ディベロップメント、教室またはオンライン学習など）に参加しているが、学習成果の評価を受けていない。	表彰、チームやプロジェクトの一員として、顕著な貢献をした。	学習の単位の修了を認定する。認定の例としては、大学の単位、CEU、大学の単位以外の学習がある。	学習プログラム（または学習レベル）の全体または一部に対して単位を取得したことを示す。より大きな学習目標を達成するための励ましのためにも使用できる。このバッジが、既に取得しているバッジや今後取得するバッジとどう関係し、また適合するかを示す必要がある。	高難度の環境でスキルを実証した場合。パフォーマンスを示したことを示す。教員や試験官による評価による。	当該の知識領域において能力を実証した場合。教員や試験官による評価や、 認証・免許取得 の要件を満たすその他の文書（職務経験、学歴など）を添付する必要がある。

IACET Badging Taxonomy, the International Association of Continuing Education and Training (IACET),

<https://www.iacet.org/default/assets/File/OpenDigitalBadging/Taxonomy%20for%20IACET%20Badges.pdf>

を元に作成した。（井上）

井上雅弘（2022）（jv-campus「デジタルクレデンシャル等オンライン教育の質保証専門部会」資料）

21 st Century Skills	
Module-specific badge image	
Badge Name	21 st Century Skills by J-MCP

<https://kuiige.wixsite.com/j-mcp/copy-of-course-modules>

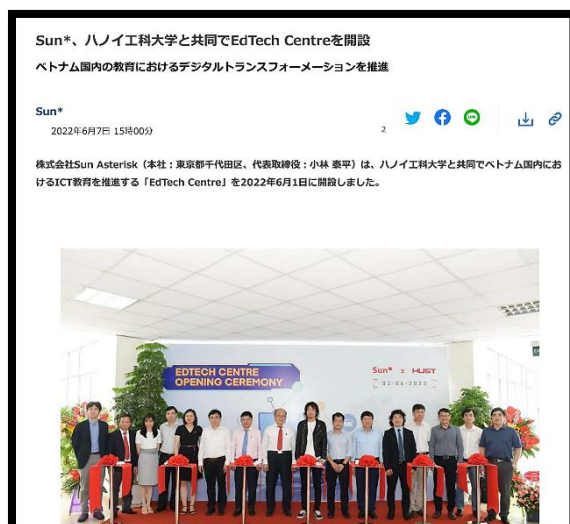
(2) グローバルな官民または産学連携に国内大学も目を向け参加する

グローバル産学（官民も可）の取組を実現、より高度人材層に適性のある外国人留学生層を誘致。日本の高等教育機関のブランドを高める効果も期待。

参考事例：

SUN*株式会社
グローバル事業
JICA の HEDSPI-Higher Education
Development Support Project on ICT を
2014 年に継承し、現在に至る

ハノイ工科大学他東南アジアの大学と連携し、学内で IT・日本語等の教育（単位あり）を担い、日本で就労したい人材層を育成・輩出している



独自のエンジニア教育と日本語授業を運営



2006 ~

本プログラムの前身はハノイ工科大学とJICAが共同で発足したODAプロジェクト「HEDSPI」



ハノイ工科大学 独立行政法人 国際開発機構

- 「日本語のできる高度IT人材の育成を目標」に大学の正式学科として設置
- 通常カリキュラムに加え、「日本語」と「実践IT」科目（必修）を学習



2014 ~

JICAのサポート終了にともないSun*が自費でプログラムを継承

- 学生のモチベーションを「国費留学」→「日本就職」に転換
- 大学に自社の社員を職員として派遣し担当科目の運営をSun*が全て担当
- 寄付講座ではなく大学公式の学科として運営されているので学生の日本就職への意識が高い
- 学生は4~5年間 日本語（N3取得が卒業条件）とITスキルの向上に励む

数々の開発実績によって培われた独自のエンジニア教育

- DX推進の実績をもとに作られた独自のカリキュラムにゼロからアップデート

Sun* xseeds

5

海外トップ大学との提携拡大

ベトナム



ハノイ工科大学
・2006年より開始
・5学年 1,190名が在籍



ダナン工科大学
・2016年より開始
・4学年 250名が在籍



ベトナム国家大学
ハノイ校 技術工学大学
・2017年より開始
・4学年 110名が在籍



ベトナム国家大学
ホーチミン校 情報通信大学
・2019年より開始
・4学年 360名が在籍



ベトナム国家大学
自然科学大学
・2020年より開始
・1学年 20名が在籍



フェニカ大学
・2020年より開始
・3学年 170名が在籍

大学ランキング

- ベトナム国家大学ハノイ校附属 技術工学大学
- ハノイ工科大学
- ベトナム国家大学ホーチミン校附属 情報通信大学
- ダナン工科大学

インドネシア



ガジャ・マダ大学
・2020年よりSunサポート開始
・IT専攻の学生が対象
・ANCジャパンと提携してコース提供



インドネシア大学
・2021年よりSunサポート開始
・IT専攻の学生が対象
・ANCジャパンと提携してコース提供

大学ランキング

- ガジャ・マダ大学
- インドネシア大学
- ボゴール農科大学

マレーシア



マレーシア工科大学
・2020年よりサポート開始
・機械・電気・化学系
・JICAのODA案件であるMJITをサポート

大学ランキング

- マラヤ大学
- マレーシア工科大学
- マレーシア サイenz大学

ブラジル



カンピナス大学
・2021年よりJICA基礎調査案件として実施



ミナス・ジェライス連邦大学
・2021年よりJICA基礎調査案件として実施



サンパウロ大学
・2021年よりJICA基礎調査案件として実施

大学ランキング

- カンピナス大学
- ミナス・ジェライス連邦大学
- サンパウロ大学

引用元：The World University Ranking

6

© 2022 Sun* Inc.

Sun* xseeds

これまでの支援実績

参加企業（延べ） **217** 社

内定者数 **590** 名



8

© 2022 Sun* Inc.

Sun* xseeds

SUN*の事業は海外からの直接採用による人材獲得への貢献だが、同じスキームで国内進学（博士課程前期後期等）や留学へも誘致は可能。まず国内大学の認知度と評価がボトムアップで上がる。海外大学は、自身で提供できないリソースや教育の支援を積極的に求めている。

こういった民間事業の活動は非常に評価できる。これを踏まえ、ビジネス日本語教育や、日本社会で活動する上で必要な教育コンテンツの提供は、国内の高等教育機関の方がよりリソースを持っているため、連携構築を行うシーズがある。同時に、このような越境型の学習活動や教育の協働提供等が可能な柔軟な体制創りが、国内の教育制度に伴う必要がある。



Blended mobility implementation guide for Erasmus+ higher education mobility KA131

エラスムス+高等教育モビリティのためのブレンデッドモビリティ実施ガイド **KA131**

EUROPEAN COMMISSION

Directorate-General for Education, Youth, Sport and Culture
Directorate B – Youth, Education and Erasmus+
Unit B.1 – Higher Education

E-mail: EAC-HE@ec.europa.eu

*European Commission
B-1049 Brussels*

PDF	ISBN 978-92-76-57572-6	doi: 10.2766/467485	NC-05-22-325-EN-N
-----	------------------------	---------------------	-------------------

© European Union, 2022



The reuse policy of European Commission documents is implemented by the Commission Decision 2011/833/EU of 12 December 2011 on the reuse of Commission documents (OJ L 330, 14.12.2011, p. 39). Except otherwise noted, the reuse of this document is authorised under a Creative Commons Attribution 4.0 International (CC-BY 4.0) licence (<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>). This means that reuse is allowed provided appropriate credit is given and any changes are indicated.

For any use or reproduction of elements that are not owned by the European Union, permission may need to be sought directly from the respective rightholders.

Blended mobility implementation guide for Erasmus+ higher education mobility KA131

Table of Contents

Purpose of this document.....	5
Benefits of introducing blended mobility	5
Inclusiveness.....	6
Flexibility	7
Innovative ways of teaching and learning	8
How does blended mobility in Erasmus+ work?	9
How to implement blended mobility successfully?	11
Possible blended mobility scenarios	15
1. A blended intensive programme for students	15
2. A blended intensive programme for students in cooperation with outside stakeholders.....	15
3. A blended intensive programme for administrative staff	16
4. A blended short-term study mobility.....	16
5. A blended short-term traineeship for students	17
6. A blended long-term traineeship for students	17
7. A blended staff mobility for training.....	17
8. A blended staff mobility for teaching and training.....	17
Existing examples of blended mobility	18
1. Examples from European Universities	18
2. Examples from Erasmus+ KA2 projects	19
3. Examples outside of Erasmus+	21
Conclusions.....	22
Sources and Resources	23

目次	
本書の目的	5
ブレンデッドモビリティ導入のメリット	5
包括性	6
柔軟性	7
革新的な教育・学習方法	8
エラスムス+の混合モビリティはどのように機能するのか	9
ブレンデッドモビリティを成功させる方法	
ブレンドモビリティのシナリオ	
1. 学生のための混合型集中プログラム	
2. 外部関係者と連携した学生のための混合型集中プログラム	
外部関係者との連携による学生のためのブレンデッド集中プログラ	
ム	
3. 管理職のためのブレンド型集中プログラム	
4. 短期学習モビリティ (Blended Short Study mobility)	
5. 学生のための短期研修生制度	
6.	
7. トレーニングのためのブレンドスタッフモビリティ	
8. 教育・研修のためのブレンド型スタッフモビリティ	
ブレンデッドモビリティの既存事例	
1. 欧州の大学における事例	
2. Erasmus+ KA2 プロジェクトの例	
3. エラスムス+以外の事例	
結論	
ソースとリソース	

Purpose of this document

The purpose of this document is to provide future and current beneficiaries of KA131 funds within the Erasmus+ programme with guidance and inspiration on how to organise and implement high quality blended mobility opportunities, both for outgoing and incoming Erasmus+ participants. It outlines the rationale for this novelty introduced in the 2021-2027 Erasmus+ programme and the potential benefits of blended mobility for students, staff and their higher education institutions. It provides a snapshot of existing policy literature on the subject, summaries lessons learned from past projects, including KA2 Strategic Partnerships that experimented with blended mobility, and showcases good practices that can prove to be success factors in the organisation of blended mobility.

This document is a living document, and as new evidence emerges and eligibility and funding rules in Erasmus+ evolve, this document may be updated. It has to be read as a complement to the Higher Education Mobility KA131 Handbook and the 2022 Erasmus+ Programme Guide, which set the funding and eligibility rules for all types of mobilities, including short-term blended mobility within KA131. This document is intended to inspire and motivate institutions planning to implement blended mobility activities within KA131 and as such is not a mandatory reading for beneficiaries but an additional support tool.

この文書の目的は、エラスムス+プログラム内の**KA131**資金の将来および現在の受益者に、出発および到着するエラスムス+参加者の両方のために、高品質のブレンドモビリティ機会を組織し、実施する方法についてのガイダンスとインスピレーションを提供することです。本書では、**2021-2027年のエラスムス+プログラムで導入されたこの新しい制度の根拠と、学生、スタッフ、高等教育機関にとってのブレンドモビリティの潜在的な利点について概説しています**。また、このテーマに関する既存の政策文献の概要を示し、ブレンドモビリティの実験を行った**KA2戦略的パートナーシップ**を含む過去のプロジェクトから得られた教訓を要約し、ブレンドモビリティの組織化において成功要因となり得るグッドプラクティスを紹介しています。

この文書は生きた文書であり、新たな証拠が出てきたり、エラスムス+の資格や資金調達の規則が進化したりすると、この文書も更新される可能性があります。高等教育モビリティ**KA131**ハンドブックおよび**2022年エラスムス+プログラムガイド**を補完するものとして読む必要があり、**KA131**内の短期のブレンドモビリティを含むすべての種類のモビリティのための資金調達と資格に関する規則が設定されています。本書は、**KA131**内でブレンドモビリティの実施を計画している教育機関を刺激し、動機づけることを目的としており、受益者の必読書ではなく、追加の支援ツールとなります。

Benefits of introducing blended mobility

Blended mobility was introduced as a novelty in the Erasmus+ 2021-2027 programme's higher education mobility action KA131 in order to enrich and diversify the experience of students and staff who would learn or train or teach abroad. Moreover, given the bigger budget allocated to the programme in the new multiannual financial framework 2021-2027, Erasmus+ aims to capture a much higher share of the population and fund more mobilities than in the past, so the blended mobility options will facilitate accomplishing this objective.

Research has already shown that all mobility experiences, regardless of length, have a positive impact on students, for example when it comes to employment (Van Hees, V., & Montagnese, D. (2020), p.18). As the general objective for the new Erasmus+ programme is to boost learning and training opportunities in Europe and worldwide and to include more people in this experience, blended (short-term) mobilities can be an important first step for students who are hesitant to go abroad.

Institutions can build on their own previous experiences with virtual and distance learning, both as a result of the pandemic and also during the years prior, and use the tools that have already proven successful. Some institutions or individual teachers might have experience with virtual learning, COIL courses and using collaborative platforms to work with students from different institutions. Blended mobility activity within Erasmus+ offers the opportunity to build on those relationships and expertise to create a more structured and more inclusive mobility format with a guarantee of quality afforded to it by the regular Erasmus+ programme quality assurance mechanisms.

ブレンドモビリティは、海外で学んだり訓練したり教えたりする学生やスタッフの経験を豊かにし多様化するために、**エラスムス+ 2021-2027プログラムの高等教育モビリティ活動KA131の新機軸として導入されました。**さらに、**2021年から2027年の新たな多年次財政枠組みにおいてプログラムに割り当てられたより大きな予算を考慮すると、エラスムス+はこれまでよりもはるかに高い人口比率を獲得し、より多くのモビリティに資金を提供することを目指しており、混合モビリティの選択肢はこの目的の達成を促進するものである。**

調査によると、モビリティの経験は、期間の長短にかかわらず、例えば就職の際に学生に良い影響を与えることが既に示されています (Van Hees, V., & Montagnese, D. (2020), p.18)。**新しいエラスムス+プログラムの一般的な目的は、ヨーロッパと世界における学習とトレーニングの機会を高め、この経験に多くの人を参加させることなので、混合型（短期）モビリティは海外に行くことを躊躇している学生にとって重要な最初のステップになりえます。**

教育機関は、パンデミックの結果として、またそれ以前の数年間において、バーチャルおよび遠隔学習に関する自らの過去の経験を基に、すでに成功を収めているツールを利用することができます。教育機関や教員によっては、バーチャルラーニングやCOILコース、異なる教育機関の学生と共同作業を行うためのプラットフォームの利用などの経験を有している場合もあります。エラスムス+におけるブレンドモビリティは、こうした関係や専門知識を基に、エラスムス+プログラムの通常の品質保証メカニズムによる品質保証のもと、より構造的で包括的なモビリティ形式を構築する機会を提供するものです。

The Erasmus+ programme sets inclusion as one of its horizontal objectives and the new mobility options were integrated in KA131 as novelties in the Erasmus+ 2021-2027 programme precisely in order to better accommodate the different needs and situations of a diverse student population. At its core, blended mobility creates new learning opportunities for people who could not participate in a mobility programme before, in particular, students from different backgrounds, including those with fewer opportunities.

Several publications stress this inclusion aspect of blended mobility opportunities. The Inclusive Mobility project¹, for instance, recommends institutions to encourage the mobility of students with disabilities and to “[c]ommit to providing a variety of mobility programmes to suit different needs and aspirations”, including virtual types of mobilities.

These different types of student mobilities can act as a first step towards longer mobility experiences and can build up student confidence (Gallagher, L., & Ryde, D. (n.d.), p.12). The virtual component of blended mobility can also prepare the students for the physical mobility for example by facilitating friendships, contacts and supporting social networking (Erdei, L. A. & Káplár-Kodácsy, K. (2020), p. 77). The results of EVOLVE’s study on virtual exchange confirm this: around 60% of students who had participated in a virtual mobility were interested in physical mobility as a result of their virtual exchange course (EVOLVE Project Team (2020b), p. 34).

The new Erasmus+ programme allows students to benefit from the mobility already in their first year and short-term blended mobility is suitable for this purpose. When students can be encouraged to participate in short blended programmes early in their student career, they will be more likely to participate in full semester programmes later in their studies.

エラスムス+プログラムでは、インクルージョンを水平目標の1つに掲げており、多様な学生集団の異なるニーズや状況にうまく対応するために、まさにエラスムス+2021-2027プログラムにおけるノベルティとしてKA131に新しいモビリティオプションが統合されたのである。ブレンデッドモビリティの核心は、これまでモビリティプログラムに参加できなかった人々、特に機会の少ない人々を含む様々な背景を持つ学生たちに新たな学習機会を創出することです。

いくつかの出版物は、ブレンドモビリティの機会が持つこのインクルージョンの側面を強調しています。例えば、**Inclusive Mobilityプロジェクト1**では、障害を持つ学生のモビリティを奨励し、バーチャルタイプのモビリティを含む「さまざまなニーズや希望に応じた多様なモビリティプログラムの提供を約束する」よう教育機関に勧告しています。

こうしたさまざまなタイプの学生のモビリティは、より長いモビリティ体験への第一歩として機能し、学生の自信を高めることができる (Gallagher, L., & Ryde, D. (n.d.), p.12)。また、ブレンドモビリティのバーチャルな要素は、例えば、友人関係やコンタクトを促進し、ソーシャルネットワークをサポートすることによって、物理的なモビリティのために学生を準備することができます (Erdei,

L. A. & Káplár-Kodácsy, K. (2020), p. 77)。EVOLVEの仮想交流に関する研究結果はこれを裏付けている：仮想移動に参加した学生の約60%が、仮想交流コースをきっかけに物理的な移動に興味を持った（EVOLVEプロジェクトチーム (2020b), p.34）。

新しいエラスムス+プログラムでは、学生は1年目からすでにモビリティの恩恵を受けることができ、短期間のブレンドモビリティはこの目的に適している。学生が学生生活の早い段階で短期のブレンデッドプログラムに参加するよう促すことができれば、学業の後半にフルセメスタープログラムに参加する可能性が高くなる。

¹ <https://inclusivemobility.eu/>

Staff can also benefit from blended mobility for instance by participating in a virtual component before their physical mobility to build their confidence, self-efficacy and intercultural sensitivity, which can lead to a better quality mobility and in turn to an increased number of applicants and participants (see recommendations from the project ["Teach with Erasmus+" \(TWE+\)](#)²).

Blended mobility can additionally encourage internationalisation at home. This can be a good introduction for local students that are hesitant to go on mobility and might encourage further participation in mobility activities later in their studies. Participation in blended courses as local students allows for an international experience at home through interaction with international students and staff throughout both the virtual and physical components of the blended mobility.

例えば、スタッフがモビリティに参加する前に、バーチャルなモビリティに参加し、自信、自己効力感、異文化への感度を高めることで、モビリティの質を高め、ひいては応募者や参加者の数を増やすことができます（プロジェクト「エラスムスと教える」（TWE+）2からの推奨事項を参照）。

ブレンデッドモビリティは、さらに自国での国際化を促進することができます。これは、モビリティに参加することを躊躇している地元の学生にとって良い導入となり、その後のモビリティ活動への参加を促すかもしれません。地元の学生としてブレンデッドコースに参加することで、ブレンデッドモビリティの仮想的・物理的要素を通じて、留学生やスタッフとの交流を通じて、自宅でも国際的な経験を行うことができます。

Flexibility

Blended learning and blended mobility formats can boost mobility numbers by respecting varying academic systems in different countries in a more flexible manner than physical mobility. The flexibility offered by blended solutions can for example serve to overcome differences in the academic calendars of different institutions (Gaebel, M., Zhang, T., Stoeber, H. & Morrisroe, A. (2021), p. 24). In addition, and in line with the opening of KA131 to international mobility, participants can go on a blended mobility (that is not part of a blended intensive programme (BIP)) to third countries not associated to the Programme too, which in turn translates into even more mobility and cooperation possibilities and flexibility. Currently, blended intensive programmes can only take place in EU Member States or third countries associated to the Erasmus+ programme.

In a survey conducted by the "How Long is Too Long" (HLiTL) project, participants stressed that blended mobility allows students to simultaneously reap the benefits of both physical and virtual mobility, financial savings, flexibility and access to new ways of studying and teaching. (Universidade do Porto (2020), p. 21).

ブレンデッドラーニングとブレンデッドモビリティの形式は、物理的なモビリティよりも柔軟な方法で、異なる国の様々な学問体系を尊重することによって、モビリティ数を増やすことができます。ブレンデッド・ソリューションが提供する柔軟性は、たとえば、異なる教育機関の学事日程の違いを克服するのに役立つ（Gaebel, M., Zhang, T., Stoeber, H. & Morrisroe, A. (2021), p.24）。さらに、KA131の国際的なモビリティへの開放に伴い、参加者は本プログラムに関連しない第三国へのブレンドモビリティ（ブレンド集中プログラム（BIP）の一部ではない）にも行くことができ、その結

BLENDED MOBILITY IMPLEMENTATION GUIDE FOR ERASMUS+ HIGHER EDUCATION MOBILITY KA131
果、モビリティと協力の可能性と柔軟性がより一層高まることになる。現在、混合型集中プログラムは、EU加盟国またはエラスムス+プログラムに関連している第三国でのみ実施することができます。

How Long is Too Long」 (HLiTL) プロジェクトが実施した調査では、ブレンデッドモビリティによって、学生は物理的・仮想的な移動性、経済的節約、柔軟性、新しい学習・教育方法へのアクセスといったメリットを同時に享受できると強調されています。(ポルト大学 (2020)、p.21)。

Blended short-term mobility programmes might also work well for students in highly specialised fields or training for regulated professions. They get the benefit of cooperating internationally on relevant topics and build their professional networks while not compromising the structure and timetables of their highly regulated study programmes. This may also be very relevant for doctoral students following very individualised study paths.

Blended mobility courses can also be a good way to encourage more cooperation between higher education institutions and other non-HEI actors, such as companies, municipalities, regional authorities, SMEs³, etc.

また、高度に専門化した分野の学生や、規制された職業に就くための訓練を受ける学生にとっても、短期間のモビリティプログラムを組み合わせることは有効かもしれない。学生は、規制の厳しい学習プログラムの構成や時間割を崩すことなく、関連するテーマで国際的に協力し、専門的なネットワークを構築するというメリットを得ることができます。これは、非常に個性的な研究課程を歩んでいる博士課程の学生にとっても、非常に有効な手段である。

また、ブレンデッドモビリティコースは、高等教育機関と企業、自治体、地方公共団体、中小企業³ などの非高等教育機関の間の協力を促進する良い方法となる。

² <https://teachwitherasmus.eu/>

Innovative ways of teaching and learning

Blended mobility offers opportunities for new ways of learning, teaching and training that can lead to the development of new types of competences. Both stand-alone blended mobility and participation in blended intensive programmes can lead towards adopting innovative education practices and flexible learning pathways such as multidisciplinary programmes, group or team learning and assignments, short courses potentially leading to micro-credentials and better upskilling or reskilling opportunities.

Blended mobility courses can also allow institutions to explore more direct cooperation with enterprises, organisations, municipalities and other stakeholders through challenge-based learning approaches where students can work together across disciplines, in particular in the context of the blended intensive programmes. Students are able to address topics or challenges in cooperation with different stakeholders and improve their critical thinking, problem solving, and creative and entrepreneurial skills (for example through living labs⁴ as mentioned in the European Strategy for Universities⁵).

Blended mobility can also be a means to boost the participating higher education institutions' digitalisation efforts and train their students and staff members in digital skills.

ブレンデッドモビリティは、新しいタイプのコンピテンシーの開発につながる、新しい学習方法、教育方法、トレーニング方法の機会を提供します。単独でのブレンデッドモビリティとブレンデッドインテンシブプログラムへの参加は、学際的なプログラム、グループまたはチーム学習や課題、マイクロクレデンシャルにつながる可能性のある短期コース、アップスキルやリスキルの機会向上など、革新的な教育手法や柔軟な学習経路を採用することにつながる可能性がある。

ブレンデッド・モビリティ・コースは、特にブレンデッド・インテンシブ・プログラムにおいて、学生が分野を超えて協働できるチャレンジベースの学習アプローチを通じて、教育機関が企業、組織、自治体、その他のステークホルダーとより直接的な協力を模索することも可能である。学生は、さまざまなステークホルダーと協力してテーマや課題に取り組み、批判的思考、問題解決、創造的・起業的スキルを高めることができる（たとえば、大学のための欧州戦略⁵で言及されているリビングラボ⁴を通じて）。

また、ブレンデッドモビリティは、参加する高等教育機関のデジタル化の取り組みを後押しし、学生やスタッフにデジタルスキルを教育する手段ともなり得る。

³ Small and medium-sized enterprises

⁴ Living labs in universities enable students, staff and researchers to cooperate with other key stakeholders to solve societal challenges and encourages application of knowledge to the real-world context, enhances skills of those involved, increases connections between people, and provides more opportunities to connect with society.

⁵ <https://education.ec.europa.eu/document/commission-communication-on-a-european-strategy-for-universities>

A study conducted by the EVOLVE project on the attitudes of students towards “virtual exchange” showed overall a positive response. The majority of students thought that the exchange was a “valuable part of their higher education course and should be continued in the future” (EVOLVE p. 32). They furthermore found that “a major factor influencing students’ general virtual exchange appreciation appears to be their perception of the virtual exchange being an opportunity for developing transversal and discipline specific skills” (EVOLVE – impact on student learning, p.33).

Being involved in organising blended intensive programmes or other short-term blended courses for incoming mobile students that are on individual blended mobility, gives the opportunity to higher education teaching staff to experiment in designing innovative programmes in multidisciplinary subjects. The institutions can also use this occasion to offer modules or programmes in English, if they otherwise were restricted in doing so, and on topics that would expand their expertise.

In conclusion, blended mobility serves the purpose of promoting and implementing quality mobility, while at the same time achieving all the horizontal priorities of Erasmus+ such as inclusion, digitalisation, sustainable development and active civic participation. In short, through the new blended options, the main objective of the Erasmus+ programme, which is the development of the participants’ professional and personal skills by learning from abroad, can be more easily accomplished.

EVOLVEプロジェクトが行った「バーチャル交流」に対する学生の意識調査では、全体的に肯定的な回答が得られました。学生の大半は、交流が「高等教育コースの貴重な一部であり、今後も継続されるべき」(EVOLVE p. 32)と考えています。

という意見が大半を占めました (EVOLVE p.32)。さらに、「学生のバーチャル・エクスチェンジに対する一般的な評価に影響を与える主な要因は、バーチャル・エクスチェンジが横断的なスキルや分野固有のスキルを開発する機会であるという認識であるようだ」 (EVOLVE - impact on student learning, p.33)ことがわかりました。

個人で移動する学生を対象としたブレンド型集中プログラムやその他の短期ブレンド型コースの編成に携わることは、高等教育機関の教員にとって、学際的な科目における革新的なプログラムの設計を試みる機会となる。また、高等教育機関はこの機会を利用して、これまで制限されていた英語でのモジュールやプログラム、専門性を高めるようなトピックを提供することができる。

結論として、ブレンデッドモビリティは、質の高いモビリティを推進・実施すると同時に、インクルージョン、デジタル化、持続可能な開発、積極的な市民参加といったエラスムス+の水平方向の優先事項すべてを達成するという目的に合致しています。つまり、新しいブレンデッド・オプションを通じて、海外から学ぶことによって参加者の専門的・個人的スキルを開発するというエラスムス+プログラムの主目的をより容易に達成することができるのです。

How does blended mobility in Erasmus+ work?

Under the previous Erasmus+ Programme, physical mobility of a short duration was not possible for students in KA1 but only for staff and in KA2 strategic partnerships. In line with the horizontal priorities of the Erasmus+ programme, and to accommodate the need

BLENDDED MOBILITY IMPLEMENTATION GUIDE FOR ERASMUS+ HIGHER EDUCATION MOBILITY KA131
expressed by the sector to introduce blended mobility options, mobilities of shorter physical duration were introduced as a novelty. They are always combined with a virtual component to make sure that the overall experience is long enough to be meaningful in the same way that long-term physical mobility traditionally is. The only exception to this rule are doctoral students, for whom it was decided to allow short-term mobility for studies also without the virtual component due to the nature of their studying. The introduction of short-term blended mobility options does not, however, preclude any long-term mobility to be organised in a blended format, although the Erasmus+ programme offers grants only for the period spent physically abroad.

Blended mobility within Erasmus+ combines a physical mobility with a virtual learning component, before, during and/or after the physical mobility. Blended mobility can be organised for student mobility for studies and traineeships from all study cycles as well as for staff mobility of any type. Blended student mobility can take place in combination with either a short-term or a long-term physical mobility abroad. It can be a bilateral/stand-alone mobility by an individual participant, or a group mobility of several participants from the same home institution to a host institution offering for instance blended intensive programmes. In both cases, the cooperation between the two institutions needs to be underpinned by an inter-institutional agreement to guarantee the quality of the study and teaching mobility.

以前のエラスムス+プログラムでは、KA1の学生は短期間の移動ができず、スタッフおよびKA2の戦略的パートナーシップにおいてのみ、物理的な移動が可能であった。エラスムス+プログラムの水平的な優先順位に沿い、また、混合型モビリティの導入というセクターから表明されたニーズに対応するため、物理的な期間が短いモビリティが新規に導入されました。これらは常にバーチャルな要素と組み合わせられ、従来の長期的な物理的移動と同じように、全体的な体験が十分に意味のあるものになるよう配慮されています。

ただし、博士課程の学生だけは例外で、彼らの研究の性質上、バーチャルの要素を含まない短期間の移動も認めることになりました。ただし、エラスムス+プログラムでは、物理的に海外に滞在した期間に対してのみ補助金が支給されます。

エラスムス+のブレンデッドモビリティは、物理的な移動の前、中、後に、物理的な移動と仮想学習要素を組み合わせたものです。ブレンデッドモビリティは、あらゆる学習サイクルの学業や研修のための学生のモビリティとして、また、あらゆるタイプのスタッフのモビリティとして組織することができます。

また、あらゆるタイプのスタッフモビリティにも適用されます。学生のモビリティは、短期または長期の物理的なモビリティと組み合わせて実施することができます。これは、参加者個人による二国間または単独のモビリティ、あるいは同じ母校から複数の参加者によるグループモビリティで、例えばブレンド型集中プログラムを提供する受入機関へのモビリティとなります。いずれの場合も、両機関間の協力は、学習・教育モビリティの質を保証するための機関間協定に裏打ちされたものである必要がある。

The individual support grant for blended mobility is calculated based on the period physically spent abroad while respecting the set minimum duration of the physical component of a blended mobility, which is as follows:

- Short-term physical mobility for students (studies and traineeships): 5 days
- Long-term physical mobility for students (studies and traineeships): 60 days
- Staff mobility to EU member states and third countries associated to the programme: 2 days
- Staff mobility for training to EU Member States and third countries associated to the programme to take part in a blended intensive programme: 5 days
- Staff mobility to third countries not associated to the programme: 5 days
-

混合移動の個人支援金は、混合移動の物理的要素の設定された最低期間を尊重しながら、物理的に海外で過ごした期間に基づいて計算され、以下ようになります。

- 学生（学業および研修生）のための短期間の物理的移動。5日間
- 学生のための長期的な物理的移動（学業と研修）。60日間
- EU加盟国およびプログラムに関連する第三国へのスタッフの移動：2日間
- EU加盟国およびプログラムに関連する第三国への研修のためのスタッフの移動（混合型集中プログラムに参加するため）。5日間
- プログラムに関連していない第三国へのスタッフの移動。5日間

A blended mobility can be organised as a part of a blended intensive programme or not. Blended mobility can also be organised as “BIP style” courses, where partners can explore new ways of teaching and learning in a blended format without the need to meet all the requirements needed for Erasmus+ BIP funding. The Erasmus+ programme offers funding opportunities for the organisation of blended intensive programmes but institutions can also organise and fund different types of blended courses and programmes themselves, and send participants on a blended mobility to those courses and programmes that are not Erasmus+ supported blended intensive programmes.

For student mobility for studies, the virtual component should complement the study programme of the student and promote online cooperation and teamwork. The physical mobility component in a blended mobility should be a period that allows for meaningful interaction with other students and group integration in the host institution, in addition to participation in educational courses, and its content should be connected to the virtual component and mutually reinforcing. For student mobility for traineeships, blended mobility can for example take place with a short-term physical period abroad that is well

integrated with the students' tasks at their host organisation and the virtual component of the traineeship mobility should allow for meaningful online interaction with team members.

Staff members can use blended mobility to engage in both teaching and training activities. For training activities, online courses and workshops can be combined with physical interaction among the participating staff abroad, putting into practice the skills they trained in an environment that is relevant to their field of expertise. Staff mobility for teaching may combine virtual teaching modules with on-the-spot intensive seminars. Blended staff mobility can furthermore serve to increase cooperation between higher education institutions at faculty level.

When coordinating blended intensive programmes, higher education institutions can apply for organisational support to implement the programmes. The Erasmus+ Programme Guide and the Higher Education Mobility KA131 Handbook provide the funding rules and requirements to receive the organisational support.⁶

ブレンデッドモビリティは、ブレンデッドインテンシブプログラムの一部として企画することも、そうでないことも可能です。ブレンデッドモビリティは、「BIPスタイル」のコースとして開催することも可能で、パートナーは、エラスムス+のBIP資金に必要なすべての要件を満たす必要なく、ブレンデッド形式で新しい教育・学習方法を探求することができます。エラスムス+プログラムは、ブレンデッド・インテンシブ・プログラムの開催に対して資金援助の機会を提供していますが、教育機関は、さまざまなタイプのブレンデッド・コースやプログラムを自ら企画し資金援助を行うこともできますし、エラスムス+が支援していないブレンデッド集中プログラムであるコースやプログラムに、参加者をブレンデッドモビリティで派遣することも可能です。

学生のモビリティの場合、バーチャルな要素は、学生の学習プログラムを補完し、オンラインでの協力やチームワークを促進する必要があります。ブレンデッドモビリティにおける物理的な移動は、教育コースへの参加に加え、他の学生との有意義な交流や受入機関でのグループ統合を可能にする期間でなければならず、その内容は仮定の要素と関連し、相互に補強し合うものでなければなりません。研修のための学生のモビリティの場合、例えば、物理的な短期留学を行うことでモビリティの融合を図り、その期間中は、学生が所属する学校の業務と十分に連携させることができます。

また、トレーニーシップのモビリティの仮定要素では、チームメンバーと有意義なオンライン交流ができるようにする必要があります。スタッフは、ブレンデッドモビリティを利用して、教育活動と研修活動の両方に従事することができます。研修活動では、オンラインコースやワークショップを、海外にいる参加スタッフ間の物理的な交流と組み合わせることで、専門分野に関連する環境で、トレーニングしたスキルを実践することができます。教育のためのスタッフの移動は、仮定の教育モジュールとその場での集中セミナーを組み合わせることができます。また、教員の移動は、教員レベルでの高等教育機関間の協力関係を強化することにもつながる。

ブレンド型集中プログラムを調整する際、高等教育機関はプログラム実施のための組織的な支援を申請することができる。エラスムス+プログラムガイドおよび高等教育モビリティ KA131 ハンドブックには、組織的支援を受けるための資金調達のルールおよび要件が示されている⁶。

How to implement blended mobility successfully?

In order to receive students and staff members on blended mobility, higher education institutions need to develop suitable mobility programmes or courses. These courses can be “blended intensive programmes” and receive financial support from Erasmus+ for the set-up and organisation of the course. Alternatively, incoming students can be integrated into existing courses in case they are offered in a blended fashion to both international students and local students.

Institutions should develop short-term blended courses for incoming students that are in line with the institution’s educational offer, expertise and interests. Organising blended courses and blended intensive programmes should serve to accomplish the institution’s internationalisation strategy, addressing the European higher education priorities, such as digitalisation, sustainable development and inclusion, and enhancing the institutions’ cross-border activities. Local students should also be able to participate in blended courses that are offered to incoming mobility participants. However, they do not receive financial support from their home institution from Erasmus+. Involving local students in these blended courses is an opportunity to encourage internationalisation at home, and allows non-mobile students to work in an international environment.

The Erasmus+ programme rules regarding participant selection, the provision of information and support, exchanging mobility documents, quality assurance, recognition and meeting the ECHE requirements, apply to blended mobility as for any other type of Erasmus+ mobility.

学生や職員をブレンデッドモビリティで受け入れるためには、高等教育機関は適切なモビリティプログラムやコースを開発する必要があります。このようなコースは「ブレンデッド・インテンシブ・プログラム」と呼ばれ、コースの設定や運営に対してエラスムス+から財政支援を受けることができます。また、留学生と地元学生の双方に提供されるブレンデッド・コースの場合、入学した学生は既存のコースに統合することができる。

教育機関は、教育内容や専門性、関心に応じた短期間の混合コースを入学生向けに開発する必要がある。ブレンデッドコースやブレンデッド集中プログラムの実施は、教育機関の国際化戦略の達成、デジタル化、持続可能な開発、インクルージョンといった欧州高等教育の優先事項への対応、教育機関の国境を越えた活動の強化につながるはずである。また、現地学生も、次期モビリティ参加者に提供されるブレンデッドコースに参加することができるはずである。しかし、彼らはエラスムス+から母校の財政的支援を受けることはできません。このようなブレンドコースに現地の学生を参加させることは、自国の国際化を促進する機会であり、移動しない学生が国際的な環境で活動することを可能にします。

ブレンデッドモビリティにも、他のタイプのエラスムス+モビリティと同様に、参加者の選定、情報およびサポートの提供、モビリティに関する文書の交換、品質保証、承認、ECHE要件への適合に関

⁶Higher Education Mobility Handbook - Erasmus+ & European Solidarity Corps IT Documentation - EC Extranet Wiki (europa.eu); 2022 Programme Guide-corrigendum-1_en.pdf (europa.eu).

It is very important that institutions commit to recognising different ways of learning during a mobility, both the virtual component and the physical component. An option to do so is by recognising participation in blended intensive programmes through micro-credentials and corresponding ECTS credits, provided that the notional workload needed to achieve the learning outcomes can be assessed. It is expected that the credits students gain from their participation in blended intensive programmes are recognised as a part of their degree but this is ultimately up to the sending institution. In any case, the programme has to award at least three ECTS credits to students.

When organising blended mobility opportunities, institutions need to keep both the virtual and physical components in mind. The two should complement each other and must not be seen as entirely separate courses.

教育機関は、モビリティ期間中のさまざまな学習方法（バーチャルな要素と物理的な要素の両方）を認識することを約束することが非常に重要である。そのための選択肢として、**学習成果の達成に必要な想定作業量を評価できるのであれば、マイクロクレデンシャルと対応する ECTS 単位を通じて、ブレンデッド型集中プログラムへの参加を認めることができる。**

学生がブレンデッド型集中プログラムへの参加によって取得した単位が学位の一部として認められることが期待されるが、これは最終的には派遣元機関に委ねられるものである。いずれにせよ、プログラムでは少なくとも **3 単位の ECTS** を学生に与えなければならない。

ブレンデッドモビリティの機会を企画する場合、教育機関は仮想的な要素と物理的な要素の双方を念頭に置く必要がある。この2つは互いに補完し合うべきものであり、全く別のコースと見なしてはならない。

For the virtual component of a blended study mobility, institutions should keep the following advice in mind:

- Clear and comprehensive agreements have to be made between participating institutions about grades, recognition and quality assurance.
- The virtual component may have specific practical challenges that organisers need to be aware of, such as time zone differences, unaligned academic calendars and variance in technological resources.
- Creating an easy and functional online learning environment is crucial to ensure effective cooperation and learning opportunities.
- The online environment can be used to share theoretical insights and promote individual learning that provides a basis for the physical interaction, for example the virtual component can take place before the physical mobility as a preparatory

BLENDDED MOBILITY IMPLEMENTATION GUIDE FOR ERASMUS+ HIGHER EDUCATION MOBILITY KA131
phase where the members of the group get to know each other and materials can be shared.

ブレンデッド・スタディ・モビリティのバーチャル・コンポーネントについて、教育機関は以下のアドバイスに留意する必要がある。

- 成績、認定、質保証について、参加機関間で明確かつ包括的な協定を結ばなければならない。
- 時差、学事日程の不一致、技術的リソースの違いなど、バーチャル要素には、主催者が注意しなければならない特定の現実的な課題がある場合がある。
- 効果的な協力と学習機会を確保するためには、簡単で機能的なオンライン学習環境を作ることが重要である。
- 例えば、物理的な移動の前に、グループのメンバーがお互いを知り、教材を共有するための準備段階として、バーチャルな要素を使用することができます。

- Teachers and staff have to be well prepared to host online classrooms and be trained in diverse online pedagogical approaches.
- The virtual component should allow for cooperation between participants from the different participating countries, for example in small groups to allow for meaningful interaction.

- 教員やスタッフは、オンライン教室を開催するための十分な準備をし、多様なオンライン教育学的アプローチのトレーニングを受けなければならない。

- バーチャルな要素は、参加国の異なる参加者同士が、例えば小グループで協力し、有意義な相互作用を行えるようにする必要があります。

For the physical component of the blended mobility, the following should be taken into account:

- The physical mobility should as much as possible allow for group work, discussion and intellectual exchange instead of only lectures.
- With the theoretical basis of a virtual preparatory component, the physical component can be well-suited to put the acquired theoretical knowledge into practice, for example in laboratory work, field work, visits and interviews.
- Many existing examples of blended mobility show that the physical mobility component is specifically well-suited to connect to the local environment, for field trips and to engage with local businesses, civil society actors etc.
- The programme of the physical component needs to be well-defined and well prepared beforehand, leaving enough time for social interaction and networking.
- For physical mobility as part of a blended mobility project, different practical arrangements have to be put in place compared to regular mobilities, especially

Blended study programmes and blended intensive programmes should not only give access to educational material in the form of online lectures or videoconferencing, but also support online cooperation through cooperative exercises and discussion through suitable online platforms. This is to ensure that participants benefit from the virtual component as well as the physical component and are able to improve their digital and online cooperation skills.

In order to make sure teaching staff is ready to develop and deliver high quality inclusive virtual components, teaching staff must be trained in digital pedagogical competences, as they need to feel confident in their skills in order to deliver quality programmes to participants.

ブレンドモビリティの物理的要素については、以下の点に留意する必要がある。

- 物理的な移動は、講義だけでなく、できるだけグループワークやディスカッション、知的交流を可能にする必要があります。
- バーチャルな準備段階での理論的基礎があれば、物理的要素は、例えば実験室での作業、フィールドワーク、訪問、面接など、習得した理論的知識を実践するのに適している。
- ブレンドモビリティの既存の多くの例は、物理的なモビリティの要素が、地元の環境に接続し、フィールドトリップや地元の企業、市民社会団体などに関わるために特に適していることを示しています。
- 物理的な移動のプログラムは、社会的な交流やネットワーキングのための十分な時間を残して、事前に十分に定義され準備される必要がある。
- 特に、住居や受入機関の施設、学生へのサポートなどについては、通常の移動とは異なる手配が必要です。

混合型学習プログラムと混合型集中プログラムは、オンライン講義やビデオ会議の形で教材にアクセスできるだけでなく、適切なオンラインプラットフォームを通じて、協力的な演習や討論を通じたオンライン協力もサポートする必要がある。これは、参加者が物理的要素だけでなく、仮想的要素からも恩恵を受け、デジタルおよびオンライン協力のスキルを向上させることができるようにするためである。

質の高いインクルーシブ・バーチャル・コンポーネントを開発・提供できるようにするために、教員はデジタル教育学的な能力のトレーニングを受ける必要があります。

The development of sustainable blended learning courses needs to be a mix of bottom-up and top-down approaches. Existing virtual exchange courses have, according to a study conducted by the EVOLVE project, so far mostly been bottom-up initiatives driven by highly motivated staff who have wanted to positively impact student learning outcomes (EVOLVE Project Team (2020a), p.10). The project also found that while the motivation of these highly driven individuals was an essential component, there was still a great need for more institutional support at all levels in order to create sustainable virtual courses (EVOLVE Project Team (2020a), pp. 10-11).

The European Association of Distance Teaching Universities (EADTU) encourages institutions to support teaching staff and programme coordinators to develop different types of courses and they note that “[t]he decision for organizing physical, blended or online mobility is to be made by teaching staff. This will be based on the objectives of the course, student characteristics and on principles of international course and curriculum design” (European Association of Distance Teaching Universities (EADTU), Henderikx, P. & Ubachs, G. (2019), p. 38).

Staff participation and expertise are essential to making blended mobility successful. It is therefore important that the university management takes steps towards making the development of blended courses or programmes easier and more accessible for teaching staff and provide adequate support and incentives. Institutions could examine the possibility of internal recognition of blended mobility activities, for example through the reduction of teaching hours or points for internal promotion, to encourage teaching staff to take the time to develop different kinds of blended courses. Individual teaching staff that have successful previous experience with virtual courses or short intensive programmes can also be targeted specifically and encouraged to develop new courses.

International office staff is also important to encourage the development and creation of blended learning and mobility courses for students and staff members. They play a coordinating role to entice teachers and staff members to develop blended options within academic curricula. Mobility officers could offer regular presentations and workshops to staff members where the Erasmus+ programme and the various opportunities the programme offers regarding blended mobility are presented.

持続可能なブレンデッドラーニングコースの開発には、ボトムアップとトップダウンのアプローチをミックスする必要があります。EVOLVEプロジェクトが実施した調査によると、既存の仮想交換コースは、これまでのところ、学生の学習成果にプラスの影響を与えたいと考える意欲的なスタッフによるボトムアップの取り組みがほとんどでした (EVOLVE Project Team (2020a), p.10) 。また、このプロジェクトでは、こうした高いモチベーションを持つ個人のモチベーションは不可欠な要素であるものの、持続可能なバーチャルコースを作るためには、あらゆるレベルでより多くの組織的支援が必要であることがわかりました (EVOLVE Project Team (2020a), pp.10-11) 。

欧州遠隔教育大学協会 (EADTU) は、教育機関が教員やプログラム・コーディネーターが様々なタイプのコースを開発することを支援するよう奨励しており、「物理的、ブレンド、オンラインのモビリティを組織するための決定は、教員が行うことである」と記している。これは、コースの目的、学生の特性、および国際的なコースとカリキュラム設計の原則に基づいて行われる」 (欧州遠隔教育大学協会 (EADTU) 、Henderikx, P. & Ubachs, G. (2019), p.38) 。

ブレンデッドモビリティを成功させるためには、スタッフの参加と専門性が不可欠である。したがって、大学経営陣は、ブレンドコースまたはプログラムの開発をより容易にし、教員にとってよりアクセスしやすくするための措置を講じ、適切なサポートとインセンティブを提供することが重要である。教育機関は、例えば、授業時間の削減や内部昇進のためのポイントによって、ブレンドモビリティの活動を内部的に認識する可能性を検討し、教員が時間をかけて様々な種類のブレンドコースを開発することを奨励することができる。また、バーチャルコースや短期集中プログラムにおいて過去に成功した経験のある教員を対象に、新しいコースの開発を奨励することもできる。

国際部のスタッフも、学生やスタッフのための混合型学習やモビリティ・コースの開発・新設を奨励する上で重要である。国際部の職員は、教員や職員が教育カリキュラムの中で混合型学習を導入するよう促すための調整役を担っています。モビリティ・オフィサーは、エラスムス+プログラムと、このプログラムが提供するブレンデッドモビリティに関する様々な機会について、スタッフに対して定期的にプレゼンテーションやワークショップを開催することができます。

[自動翻訳ここまで]

Possible blended mobility scenarios

Several examples of different blended mobilities are outlined below for inspiration:

1. A blended intensive programme for students

An Erasmus+ institutional coordinator sends information to academic staff within the institution to advertise blended intensive programmes. A business studies academic is working on how small businesses can lead the way in the implementation of the sustainable development goals and wants to introduce this idea to more students but is not able to create a full new course yet. To develop the idea further, the academic gets in touch with colleagues from three other universities and they decide to organise a blended intensive programme in the form of a summer school which will focus on innovative ways to include the sustainable development goals in the daily operations of small businesses. The institution of the academic includes the blended intensive programme in their Erasmus+ grant application after discussing it with the academic and coordinating with the Erasmus+ offices of the partners. The minimum number of participants in a blended intensive programme is 15 mobile learners but all partners decide to send 10 participants to minimise the risk of not reaching the minimum number of participants. The institution of the academic which will host the programme will also send involve 10 local participants but they do not count towards the 15 minimum as they receive no funding. The programme starts with a seven day physical programme which includes a visit to several local businesses. After the physical component, the students cooperate online to develop their ideas and hand in a final report, which is assessed by the staff. The whole programme awards 3 ECTS credits.

2. A blended intensive programme for students in cooperation with outside stakeholders

An SME or a municipality approaches a university with a topic or a challenge they would like students to work on. The university contacts some of their partner universities and eventually applies for funding to organise a blended intensive programme. The programme is open to students from various disciplines and allows students to improve their problem-solving skills, along with their entrepreneurial and cooperation skills. The teachers also come from different disciplines within the BIP partnership and the programme additionally invites speakers from the enterprise/municipality and other organisations working on the topic of the programme. The intensive programme starts with two weeks of physical mobility where the participants visit the

enterprise/municipality to get to know it and have a better understanding of the topic of the programme and the challenge they will be working on. They furthermore get the chance to get to know each other and attend workshops and seminars that will prepare them for their online work. After the two weeks of physical mobility, the virtual component continues every other week for three more months under the guidance of teachers from the BIP partnership where the participants cooperate online across disciplines and countries on solutions, always staying in regular contact with the enterprise/municipality. Finally students submit their final report and present their work to the enterprise/municipality and receive 5 ECTS credits.

3. A blended intensive programme for administrative staff

A higher education institution has developed a very good orientation programme for their incoming mobile students. They want to share their best practices with colleagues from their European University Alliance and decide to organise a blended intensive programme on administrative support for mobile students. They apply for the organisational support for a blended intensive programme and organise the programme with the seven institutions that are in the alliance. They then invite staff from international offices in the alliance but also open the programme up to other partners who might be interested. The programme starts with two online half-days where participants get to know the university and how the new incoming procedures were developed. The next week has a 5-day physical mobility where staff exchange best practices, an invited speaker gives a talk, there is a workshop with the student union, a presentation on inclusion with the participation of outside stakeholders and more. Finally, once the participants return home there is a final online workshop to sum up the experience and lessons learned.

4. A blended short-term study mobility

A student in education sciences is interested in going on a mobility. The student sees that a partner institution is organising a blended course on the multicultural classroom before the start of their regular semester that the international office advertised specifically for education students. The student is interested in the course as their home institution does not offer courses on this topic and applies through the international office. The student goes on a physical mobility for two weeks to get to know their fellow students and to get an introduction to the course material and themes and once the physical component has finished the student does a group project online with the other students and attends a few online seminars for two more weeks. For this blended mobility, the student receives

5 ECTS credits and takes one less course at their home institution as they get the course recognised.

5. A blended short-term traineeship for students

A communications student sees a traineeship opportunity advertised by a private company. The company is looking for a communications trainee to revamp their social media and other communications channels and help draft a new communications strategy for the company. The company offers flexible working conditions for their employees and does not require their trainees to be present at the office physically all the time. The student then agrees with the company to do a blended traineeship. The student first goes on a short-term physical mobility to the company for three weeks to get to know the company, the new colleagues, and to attend a training course for new staff members. After the physical mobility, the student returns to their sending country where they continue working for the company remotely, continually communicating with other staff members and working collaboratively with them online for two more months. The trainee takes part in virtual team meetings and their attendance could be part of the evaluation criteria. The student receives an Erasmus+ grant for the duration of the physical mobility but may also receive a remuneration from the company in addition.

6. A blended long-term traineeship for students

A student does a 5-month physical traineeship and works virtually on finishing assignments during the next month in the home country.

7. A blended staff mobility for training

A staff member virtually engages with colleagues in the receiving institution before the physical mobility to receive training on how to use a tool they are unfamiliar with. During the physical component of the mobility, the staff member receives a hands-on training on the use of the tool and does job shadowing for a couple of days before returning home.

8. A blended staff mobility for teaching and training

A teacher takes part in both a teaching and training mobility at a partner institution. Before the physical mobility, the teacher takes part in a virtual training where the teacher meets with various colleagues at the partner university online where they do a virtual job shadowing and get training from colleagues in the use of a specific software.

The following week the staff member travels to the partner institution and delivers classes for a whole week in cooperation with their colleagues they cooperated with virtually the week before.

Existing examples of blended mobility

The following section serves to provide examples of blended mobility projects from the past and present that may be of inspiration when implementing blended mobility projects. Institutions that are already involved in international cooperation activities, such as those in the European Universities, or successful KA2 and KA3 projects, are encouraged to build on those relationships and develop blended mobility courses for their students and staff members.

1. Examples from European Universities

European University alliances are examples of close cooperation among higher education institutions internationally and are an excellent testing ground for new models of teaching, learning and training provisions. Many of the current European University alliances have committed to offer a diverse range of mobility options to their students, including blended and virtual⁷ options:

- **CIVIS** European University alliance, now offers wide variety of blended courses ([CIVIS courses – CIVIS - A European Civic University](#)) to which students from any partner institution and from multiple study levels can apply and receive funding to cover their travel costs. They combine, for example, online preparation classes with physical summer schools, leading to the awarding of a small numbers of ECTS credits.
- **EUGLOH**, the European University alliance for global health, offers **Blended Staff Mobility** opportunities ([Blended Staff Mobility Opportunity for EUGLOH Partners – 15-16 February 2022 | EUGLOH](#)) to its partners, combining a webinar, five virtual workshops and an optional physical individual exchange. Please note however that to be eligible for Erasmus+ grants, the physical component has to be mandatory.
- The **EC2U** European University alliance offers **Research Seed Mobilities**, offering grants for short-term physical motilities within the framework of the existing Virtual Institute for Quality Education ([EC2U Research Seed Mobilities](#)

⁷ Please note that KA131 does not fund fully virtual mobility

(uni-jena.de)). The main objective of the VIQE research seed mobility programme is to actively promote in-depth research cooperation among researchers and research groups of the seven EC2U universities. The physical mobility, combined with the virtual exchange platform of the institute can allow researchers to work together, form EC2U research clusters, develop research seed projects and then apply for additional national and EU funding.

2. Examples from Erasmus+ KA2 projects

Erasmus+ funds in KA2 have facilitated several successful projects engaging in blended mobility. In some cases, these projects have shared good practices, recommendations as well as challenges surrounding blended mobility.

- **EMBED** (2017-2020) was an Erasmus+ funded strategic partnership “European Maturity model for Blended Education” that was developing a monitor to map blended learning practices ([results \(eadtu.eu\)](http://results.eadtu.eu)). They have published guidelines to organise blended courses, with online materials, that stress the need for solid quality assurance, flexibility and a well thought-through choice for tools and inclusiveness.
- The 2016-2018 **BlendEd Mobility project** ([Homepage | Blended Mobility](#)) was an Erasmus+-funded project in which students from 11 universities and university colleges worked together on an innovative, interdisciplinary project, tackling a challenge in cooperation with a company. BlendEd mobility provides toolkits, guidelines on blended mobility course set-up and on cooperation with industry as well as contacts for targeted consultancy. Strengths of blended mobility are cost effectiveness, international exposure, enhancement of employability for young graduates and networking opportunities.
- The **C-Extended** Blended Mobility Handbook ([Blended Mobility Handbook \(europa.eu\)](http://Blended%20Mobility%20Handbook.europa.eu)) draws similar conclusions. The C-Extended project (2017-2020) focused on designing, testing, monitoring and evaluating an Interdisciplinary/Intersectoral/Blended-Mobility Scheme (IIBMS) targeted to master level students in a core scientific ICT-related domain, leveraging on the competences present in the partnership. The C-Extended handbook highlights the importance of the diversity of online pedagogical approaches and of professional production of online content and of evaluation of online learning data, providing a step-by-step approach.

- The **EUCERMAT** project (2015-2018) provided a very specific blended mobility approach, aimed at education in ceramic and material science. It has provided a handbook for teachers, researchers and course administrators on blended mobility: [EUCERMAT_IO2_Manual on Blended Mobility.pdf \(europa.eu\)](#). The course combined 50% theoretical online teaching units with 50% offline practical sessions in laboratories at the participating institutions. The manual lists specific tools to engage learners actively in online teaching. This project shows that blended mobility can be a great format to combine hands-on practical learning with theoretical teaching, done online.
- **CARPE**, the Consortium of Applied Research and Professional Education, comprising seven universities of applied sciences, set up the **ESSENCE** project: European Sustainable Solutions for Existing and New City Environments ([essence | Internationaal project \(husite.nl\)](#)), between 2014 and 2017. The project has provided teacher trainings on blended learning, listing relevant online teaching methods, and offered students the opportunity to work with local municipalities on specific challenges. It funded their accommodation costs and offered 2.5 to 10 ECTS credits. This project shows how short, intensive blended programmes offer added value to students by combining international mobility with local engagement.
- The **Innovative ICT Solutions for the Societal Challenges** ([INNOSOC | Sociallab \(fer.hr\)](#)) project set up a transnational multidisciplinary intensive study programme in the field of innovations based on ICT targeting societal challenges defined by the Europe 2020 and Horizon 2020 programme in 2016 and 2017. The project had a preparatory virtual mobility phase and a physical mobility component implemented through three two-week workshops hosted by three different partner universities, including both student and staff mobility.
- **The 2017-2020 EPIC, project, Improving Employability through Internationalisation and Collaboration** ([Events – EPIC \(agu.edu.tr\)](#)), sought to increase employability through closer collaboration between students and industry, by encouraging the use of new teaching methods, and by promoting international collaboration among students on various topics. It has combined online modules for students and staff with on-site seminars, lasting five days during which expenses were covered with Erasmus+ grants. Additionally, students could set up a Blended Learning Seminar, to meet physically if it is beneficial to their project work.

- The strategic partnership '**E-CUL-TOURS: Managing Cultural Heritage in Tourism**' brought together 4 higher education institutions, one small or medium-sized enterprise and the European Projects Association to address issues linked to cultural heritage in relation to tourism for master students of Tourism management ([Blended mobility Bergamo - E-cul-tours \(ecultours.eu\)](#)). In this context, the project has organised two blended mobilities to Stralsund and Bergamo, in which five students and one teacher from each institution first entered online materials via the online 'Learn Platform' and afterwards went on a five-day physical mobility. The project offered online tools and virtual conference rooms.
- The **giCASES** Erasmus+ knowledge alliance implements a Blended Academic International Mobility project that connects students to companies, boosting their employability ([Blended Academic International Mobility – giCASES](#)). Undergraduate higher education students are engaged in an international team with students from several study areas and countries in Europe to develop a product for a company during their capstone project course. Task forces are organised for each task. Regular meetings are performed where tasks are assigned to each task force participant, while a 4 months' virtual cooperation is established.

3. Examples outside of Erasmus+

Outside of the Erasmus+ programme actions, inspiration can be found in the following blended mobility examples:

- The **Nordplus** programme has supported since 2010 various shorter mobilities such as this blended course, with two weeks of physical mobility in two different countries and 4 weeks of online learning ([Intensive courses - Department of Education - Uppsala University, Sweden \(uu.se\)](#)). Note that in Erasmus+ KA131, it is not possible to organise two separate short-term mobilities during the same blended intensive programme.
- The **Winter School "International & comparative studies in adult education & lifelong learning"** at the Julius-Maximilians-University Würzburg offers students a course with both virtual and physical components ([Home - Adult Education Academy \(uni-wuerzburg.de\)](#)). Participants work on international and comparative topics of adult education and lifelong learning. As a blended learning

activity, the Adult Education Academy comprises an online preparatory phase, two weeks on-site in Würzburg and an optional subsequent online follow-up that can be chosen by doctoral students and colleagues from the field. A description of the different parts of the programme can be found in the Innovative Models for Collaboration and Student Mobility in Europe, EADTU, report (p. 48).

Conclusions

As with other forms of mobility, the success of blended mobility projects relies a lot on the time participating organisations invest in the preparation of the project. A clear description of activities, an up to date course catalogue, clearly defined project goals and motivated teachers and staff that are trained in digital delivery of courses are key to make blended mobility projects happen.

While some programmes and courses have been developed thanks to self-motivated teaching staff, the university administration, international offices and mobility coordinators have an important role to play in the preparatory phase of blended mobility, coordinating actions and organising workshops to train staff.

Universities can access various resources on virtual exchange and blended mobilities to help the development of blended mobility courses. Universities are also encouraged to work with their close partners on developing a variety of blended courses that can be offered to both students and staff members. It is essential that institutions commit to developing more varied courses to students and include blended courses in their international strategies.

As highlighted above, blended mobility projects provide a unique chance to create more inclusive, flexible and innovative mobilities under Erasmus+. Under the teleworking circumstances caused by the sanitary crisis, blended mobility has often been a necessity, leading to an ad hoc switch to online learning and a lot of improvisation. It is important that the lessons learned from the pandemic will not be lost and that the digital skills acquired will be used to further high quality blended mobility options in the future. The Erasmus+ programme is equipped to make this a reality.

Sources and Resources

Erasmus+ Project Results Platform, [Erasmus+ \(europa.eu\)](https://erasmus-plus.europa.eu/)

Erdei, L. A. & Káplár-Kodácsy, K. (2020). *International Student Mobility at a Glance – Promising Potential and Limiting Barriers of Non-traditional Mobility. Desk Research Report. Budapest: ELTE Eötvös Loránd University Department of Erasmus+ and International Programmes. Literature review - HLITL (uvsq.fr)*

European Association of Distance Teaching Universities (EADTU), Henderikx, P. & Ubachs, G. (2019). *Innovative Models for Collaboration and Student Mobility in Europe: Results of EADTU's Task Force and Peer Learning Activity on Virtual Mobility* [Innovative_Models_for_Collaboration_and_Student_Mobility_in_Europe.pdf](https://eadtu.eu/publications/Innovative_Models_for_Collaboration_and_Student_Mobility_in_Europe.pdf) (eadtu.eu)

European Students' Union & Erasmus Student Network (2021). *Bringing the student perspective to the debate on mobility, virtual exchange and blended learning: Joint position paper by the European Students' Union and the Erasmus Student Network.* <https://esn.org/news/esu-esn-position-paper-mobility-virtual-exchange-blended-learning>

EVOLVE Project Team (2020a). *Key drivers' perspectives on the institutional uptake of virtual exchange. Case Studies from 9 European HEIs.* [Key drivers' perspectives on the institutional uptake of virtual exchange. Case Studies from 9 European HEIs — de research portal van de Rijksuniversiteit Groningen \(rug.nl\)](https://www.rug.nl/research/portal/en/publications/Key-drivers-perspectives-on-the-institutional-uptake-of-virtual-exchange-case-studies-from-9-european-heis/publication.html)

EVOLVE Project Team (2020b). *The Impact of Virtual Exchange on Student Learning in Higher Education: EVOLVE Project Report.* [The Impact of Virtual Exchange on Student Learning in Higher Education: EVOLVE Project Report — de research portal van de Rijksuniversiteit Groningen \(rug.nl\)](https://www.rug.nl/research/portal/en/publications/The-impact-of-virtual-exchange-on-student-learning-in-higher-education-evolve-project-report/publication.html)

Gaebel, M., Zhang, T., Stoeber, H. & Morrisroe, A. (2021). *Digitally enhanced learning and teaching in European higher education institutions. European University Association absl.* [\(digi-he survey report.pdf \(eua.eu\)\)](https://eua.eu/publications/digital-enhanced-learning-and-teaching-in-european-higher-education-institutions)

Gallagher, L., & Ryde, D. (n.d.). *Making mobility programmes more inclusive for students with disabilities Inclusive Mobility - Guidelines for higher education institutions.* [Making mobility programmes more inclusive for students with disabilities \(inclusivemobilityframework.eu\)](https://inclusivemobilityframework.eu/)

How Long Is Too Long (HLITL), [HLITL \(uvsq.fr\)](#)

Nissen, E., & Kurek, M. (2020). *The Impact of Virtual Exchange on Teachers' Pedagogical Competences and Pedagogical Approach in Higher Education*. [The Impact of Virtual Exchange on Teachers' Pedagogical Competences and Pedagogical Approach in Higher Education — de research portal van de Rijksuniversiteit Groningen \(rug.nl\)](#)

Teach with Erasmus+ (TWE+), [Teach with Erasmus+](#)

Universidade do Porto (2020). *Analysis of different types of virtual and blended mobility and their technical conditions & core scientific areas for VM/BM. Desk Research Report. Porto: Universidade do Porto - Núcleo de Tecnologias Educativas; Serviço de Relações Internacionais*. [Analysis of existing types of mobility - HLITL \(uvsq.fr\)](#)

Van Hees, V., & Montagnese, D. (2020). *Making mobility programmes more inclusive for students with disabilities: Inclusive Mobility - Booklet of policy recommendations and good practices*. [Making mobility programmes more inclusive for students with disabilities \(inclusivemobilityframework.eu\)](#)

GETTING IN TOUCH WITH THE EU

In person

All over the European Union there are hundreds of Europe Direct information centres. You can find the address of the centre nearest you at: https://europa.eu/european-union/contact_en

On the phone or by email

Europe Direct is a service that answers your questions about the European Union. You can contact this service:

- by freephone: 00 800 6 7 8 9 10 11 (certain operators may charge for these calls),
- at the following standard number: +32 22999696, or
- by email via: https://europa.eu/european-union/contact_en

FINDING INFORMATION ABOUT THE EU

Online

Information about the European Union in all the official languages of the EU is available on the Europa website at: https://europa.eu/european-union/index_en

EU publications

You can download or order free and priced EU publications from: <https://op.europa.eu/en/publications>. Multiple copies of free publications may be obtained by contacting Europe Direct or your local information centre (see https://europa.eu/european-union/contact_en).

EU law and related documents

For access to legal information from the EU, including all EU law since 1952 in all the official language versions, go to EUR-Lex at: <http://eur-lex.europa.eu>

Open data from the EU

The EU Open Data Portal (<http://data.europa.eu/euodp/en>) provides access to datasets from the EU. Data can be downloaded and reused for free, for both commercial and non-commercial purposes.



Publications Office
of the European Union

大野構成員
提出資料

教育未来創造会議WG（第7回） 提出資料

2022年 12月 14日

東北大学総長

大野 英男



【全体を通して】

本会議では、「新しい資本主義を実現するため（中略）グローバル社会を見据えた人への投資」（総理発言）の具体化を議論していることから、日本の成長をけん引する高度人材には、グローバルな視点や経験が不可欠であり投資が必要ということを、明確にして整理することが望ましい。

上記の観点から、インバウンド・アウトバウンド・教育の国際化の意義・必要性は、教育・研究の場に留まらない。この意味で、グローバルな経験や人材の必要性が、社会全体で共有され、例えば高校段階から社会人までの各ステージで、その重要性・必要性に則った取り組みがなされることが重要である。



インバウンド（外国人留学生受入れ）に関しては、日本の教育の一層の「価値化」が進められるよう、制度改革、規制緩和と一体となった戦略的支援が求められる。制度や規制の隘路を取り除き、優秀な留学生の受入が拡大するよう全体を設計する必要がある。世界の人材獲得のフロントの一つは研究大学であるという視点も重要と考える。

- ①にある「優秀な外国人留学生の受入れ促進」については、全体を俯瞰した総合的促進策を重視する観点から、「優秀な外国人留学生の戦略的受入れ促進」とするのはどうか。
- ①②にある「優秀」の定義は引き続き検討課題。人数に加え、質的な向上がもたらされるよう、目指す学位やGPAなど各ステージで工夫する必要がある。



- ①にある「卒業後の定着に向けた企業・社会での受入れや起業の推進、日本と母国の懸け橋となる人材の受入れ促進」については、具体策として「受入促進に資する戦略的在留資格の実現」と明確化してはどうか。
- ①にある「留学時の隘路解消（情報提供の強化や各種手続きの簡素化）」は、情報提供や手続きの簡素化にとどまらず、住居探し、子の修学、日本語教育等の充実のほか、行政や病院等での二言語化と地域社会での英語対応の拡充などを具体的に述べ、「社会全体によるサポート体制の充実」と明確化してはどうか。



アウトバウンド（派遣）の拡大は大きな課題である。経済的負担で躊躇する学生が多かったところにコロナ禍があり、その上に円安が希望者減に拍車をかけている。日本全体が受益者という観点に立った体系的支援と財源が必要である。

- 「①基本的方向性」の「留学促進の隘路解消」の例示に、就職プロセスにおける海外留学の評価促進を加えてはどうか。現在、就職活動ルールが政府で議論されているが、留学した学生が就職プロセスに参加しやすいよう別枠を設けることも考えられる。
- ②の目指したい人材の姿に、「日本の成長を牽引しイノベーションを創出する人材、世界に貢献する人材」を加えてはどうか。



4. (3) 教育の国際化にあたっての考え方

- 「①基本的方向性」に、「国際化を実現するための組織内における戦略的システム構築（学内制度、組織体制、構成員の意識改革など）とそれに対する支援の充実」を加えてはどうか。
- 「①基本的方向性」に、ポストコロナ時代のより高度化した国際化に向け「日本の大学の魅力とブランド力を磨く取組の継続とさらなる発展」を加えてはどうか。



【全般的な考え方】

- 日本全体としてのエコシステム構築が重要である。ステージ別（高校・学士・修士・博士）に、インバウンドやアウトバウンドの割合を目標として設定してはどうか。特に博士課程学生については、国際性が重要であることから、すべての学生が一度は留学するなどの目標設定が考えられる。
- インバウンドとアウトバウンドの指標に加えて、「教育の国際化」関係があることが望ましい。教育現場の改革に留まらず、国全体を見据えた国際化を進める制度改革や規制緩和、エコシステムの構築や維持に必要な予算的手当も視野に入れることが考えられる。

教育未来創造会議ワーキンググループ 骨子（案）及び 論点整理にあたっての基本的考え方（案）について

令和4年12月14日
広島県知事 湯崎英彦

- これまでの会議において
 - ・ 全ての人材が国際感覚を持つ必要があり、そのためには大学のみならず、初等中等教育段階においても国際感覚の育成が必要であること。
 - ・ ハード整備を含めた大学の魅力向上策の検討や戦略的に投資分野を決めたうえで、短期と中長期の取組を整理し投資を行う必要があること。
 - ・ 留学生の受入・派遣及び教育の国際化について目的・意義の整理が必要であること。を提案させていただいたところである。
- 本日表示された骨子（案）においては、
 - ・ 国内大学の教育研究環境の質及び魅力の向上
 - ・ 高校から大学院段階までを通じた日本人学生派遣の推進
 - ・ 初等中等教育段階における英語教育・国際理解教育の推進などについて明記されているほか、
論点整理にあたっての基本的考え方（案）において
 - ・ 留学生の受入れ・派遣や教育の国際化の意義について記載されており、短い期間の中でとりまとめいただいたことに感謝する。
- その中で、留学生の受入れ・派遣や教育の国際化の意義については、提示されているように複数あり、それぞれの目的に応じてターゲットセグメントや施策が異なるものとする。
例えば、そもそも日本の競争力が世界最高レベルにある物理や化学などの分野の、研究力をさらに向上させることを目的として留学生を受け入れる場合と、多文化共生のように考え方を社会へ浸透させることを目的として留学生を受け入れる場合では、課題やターゲットとなる学生層はおのずと異なるはずであり、それぞれに応じて適切な施策を実施する必要があると考える。
- このため、今後の論点整理と第二次提言の取りまとめに当たっては、施策の実行段階において、何を目的として、誰に対し、どのような施策を行うのか、担当省庁が認識できるように整理したうえで提言として示すことが重要ではないか。